

合したり。而して突厥可薩部はトウ子ーブル河邊を永住の部落と定め、由來「リシニア」人に征服せられたる一部落に、漂泊的剽掠を試み、或は附近の游牧民を指導誘掖しつゝ、漸く土着の計を爲せり。是れ即ち哈薩克の祖先なりとす。

膽力の試  
驗

ドウ子ーブル河の下流は、當時「リシニアニア」と蒙古との境界たり。哈薩克は波蘭<sup>ポーランド</sup>の虐政を厭ふて、遁逃せんとする「リシニアニア」人の投來する者に對し、假りに與ふるに避難地を以てす。然れども哈薩克の健軀豪膽は、彼等粗野なる「リシニアニア」人を避難せしむる一條件として、常に急湍激流の中を渡渉せしめ、豫め其の勇氣と膽力とを試験し、始めて其の部下とせり。是に於てか自ら「リシニアニア」の婦女を容れ、或は高加索の婦人或は「スラブ」族の婦女を妻とし妾とす。斯くて其の部族は、年と共に増加せしが、後吉爾幾思<sup>キルギス</sup>及喀爾瑪克<sup>カルマク</sup>等の蒙古族と相混じて、中央亞細亞の廣野間に遊牧せり。蓋し西伯利の各哈薩克族は概ね此の雜種族なるが故に、露人は一體に之を「キルギス」又は「カイザク」と呼ぶ。

彼等は平素巨木を刳り、粗なる舟筏を造て之に搭じドウ子ーブルの急流を駛せて黒海に浮び、土耳其の船舶に掠奪を加へしが、後ドウ子ーブルよりはドン、ウォル